

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第2号 畜産

発行日 平成28年 4月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 採草地の雑草は、除草剤を適切に選択し対処します。
- ◆ 飼料用トウモロコシの栽培では、品種選定と基本技術を再確認します。葉の黄化は窒素不足です。4～5葉期に追肥を実施しましょう。

1 採草地の雑草対策

(1) 除草剤散布

ギンギンが多い場合、刈り払った草を圃場の外に持ち出す場合は、選択性除草剤を用います。強害雑草のギンギンが多い場合は、ハーモニー75DF水和剤が効果的です。

ア 新播草地の一番草収穫前

新播草地は、経年草地に使用する場合と薬液量が異なります。ハーモニー75DF水和剤はマメ科牧草(アルファルファを除く)に薬害が出ること、1回の使用であることにも注意下さい。

また、新播草地への散布は牧草定着後とし、圃場の損壊や株のめぐり上がりを防ぐため、散布の際は作業機の急な旋回を避けて下さい。

表1

使用時期	除草剤名	10aあたり散布量	対象雑草	使用回数	留意事項
新播草地定着後(ただしギンギン類草丈20cm以下)、(採草21日前まで)	ハーモニー75DF水和剤	薬剤 0.5～1g 希釈水量 100リットル	ギンギン類	1回	1 雑草茎葉散布 2 クローバーに薬害が生じる恐れがある 3 ギンギンの葉が展葉してから散布する 4 調製した薬剤は速やかに散布すること 5 散布に用いた器具類は、使用後に500倍の消石灰液で確実に洗浄し、他の用途の薬害にならないようにする 6 散布後21日間は採草及び放牧を行わない 7 牧草定着後から初回収穫まで、及び収穫終了後から収穫までの間に1回散布できる。但し、刈取残渣が圃場に残留する掃除刈りは収穫ではないことに留意する

イ 新播草地の一番草収穫後、経年草地の一番草収穫後から最終番草収穫後 新播草地の一番草収穫後は経年草地での薬液量となります。

表2

使用時期	除草剤名	10aあたり散布量	対象雑草	使用回数	留意事項
雑草生育期(ただし採草21日前まで)	ハーモニー75DF水和剤	薬剤 3～5g 希釈水量 100リットル	ギンギン類及び一年生広葉雑草	1回	上記の留意事項(1～7)と同じ



写真1 【ハーモニー散布前】



写真2 【散布約1ヶ月後】

※左写真の提供先
雪印種苗(株)

2 トウモロコシ栽培のポイント

トウモロコシは、エネルギーの高い子実と、消化性の比較的高い繊維を含む茎葉から構成され、飼料価値が優れ、家畜の嗜好性も良く、単位面積あたりの栄養収量が高い粗飼料です。下記の栽培基本技術に基づき単位収量の向上に努めましょう。

(1) 品種の選定

収穫時期に確実に黄熟期に達する品種を選択し、収穫時期の作業分散と、気象変動の危険分散を考慮し、早晩性の異なる数品種を栽培します。また、昨年の作柄を考慮して、耐病性や耐倒伏性の高い品種に変更することも考えます。

(2) 適切な施肥

堆厩肥は10a当たり3t、炭カルで200kgを標準とし、投入量に応じて化成肥料を加減します。

生の堆肥はタネバエを呼び、発芽不良の原因となるので、播種1ヶ月前に施用し土中で分解を図ります。糞尿の多量還元は、植物体中の硝酸態窒素含量を高め、硝酸塩中毒を引き起こす他、ミネラルバランスが崩れ、家畜の栄養上も問題となるので、窒素とカリが過剰にならないよう注意します。

土壤分析や飼料分析を実施している場合はその分析値に応じて施肥量を増減させます。

(3) 適切な播種作業

トウモロコシは湿害に弱いので、排水の良い畑を準備します。栽植密度は、表3の畦間、株間と栽植本数を参考して下さい。

極早生品種で8,000本、早生品種で7,000本、中生品種で6,500本、晩生品種で6,000本を標準とします。

密植しすぎると雌穂が小さくなりTDN含量が低下するだけでなく、茎が細くなり倒伏にも弱くなります。

播種は霜が降りない時期で、平均気温が10℃になる頃(5月中～下旬)に行います。

鳥害防止のため播種時にキヒゲン(チウラム剤)を粉衣します。

表3 畦間、株間と栽植本数

畦間 (cm)	株間(cm)			
	17	19	20	22
75	8,000 本/10a	7,000 本/10a	6,500 本/10a	6,000 本/10a

(4) 電気柵設置のことを考えた播種を！！

クマ食害防止のために電気柵設置を予定している圃場は圃場の縁ぎりぎりまで播種せずに、緩衝帯をしっかりと確保しましょう。軽トラックが走れるスペースがあれば電気柵資材の運搬および設置後の見回りが楽になり、なお良いです。

クマの侵入しやすい場所である林や竹やぶからしっかりと緩衝帯をとることで電気柵の存在をクマが学習しやすくなります。また、電気柵とトウモロコシの間にある程度距離を確保すると侵入しようとするクマのモチベーションを低下させることができます。播種面積が小さくなり収量が少なくなるといった心配よりもクマ食害ゼロによる収量確保、電気柵設置の労力軽減を考えれば十分なメリットが期待できます。



写真3 電気柵とトウモロコシの間を最低1m空けましょう。



写真4 大事なクマに電気柵を認識させ、接近しないことを学習させること!!

(5) 雑草の防除

ここ数年圃場に発生する雑草の種類と発生程度によって、適切な除草剤を選択し、散布時期、散布量、使用回数を守り防除に努めます。同じ除草剤を使用し続けているとその除草剤に抵抗性のある雑草が増えてきますので、一部の圃場で新たな除草剤を試してみることもおすすめします。

砕土（播種床形成）～土壌処理（除草剤）まで期間を空けすぎると雑草が芽吹いてきます。また、除草剤をしっかりと効かせるために砕土、鎮圧を念入りに実施します。

(6) 害虫の防除

早期発見が最も重要であり、発生の予想される時期に圃場をよく観察します（前年発生した圃場は特に注意します）。アカザ・タデ類などの幼植物はタマナヤガ（ネキリムシ）の産卵を誘発し、発生源となるので、播種後から生育初期にかけて雑草防除を徹底します。

前年に被害があった圃場にはクルーザーFS30を種子に塗沫処理すると被害を最小限に留めることができます。

(7) 追肥のすすめ

播種してから可能なかぎりこまめに生育を確認しましょう。葉が黄化している場合は窒素成分が欠乏しているため追肥をおこないましょう。追肥は4～5葉期に行い、穂の元になる細胞が形成される7～8葉期に間に合うようにしましょう。追肥量は5kg/10aを目安にトウモロコシの葉色や生育具合を確認しながら量を増減しましょう。栽培初期の生育観察と4～5葉期までの追肥がポイントです。



写真5 窒素不足で葉が黄化したトウモロコシ

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
「気をつけて！ 互いに声かけ 農作業安全」

次号は5月26日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。